

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人を尊重し、安らぎと安心感のもてる生活へ支援します」という理念を掲げ、ケアにあたっている。可能な限り地域との関係を維持できるように努めている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送りや定例会議の際に、個人の尊重、その人らしい暮らしの実現に向けて話し合い、理念の共有を確認している。利用者本位という点では実践できていると思う。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	それなりの努力はしていると思うが、理解されているかは個人差があると思う。今年8月の運営推進会議を町内の民生委員さんに協力いただき「いきいきサロン」と共同で行った。それ以外にも民生委員さんが協力してくれ、地域住民と恵の家が共同でお茶会のようなものを開いている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に声を掛け合ったり、挨拶などは日常的にできている。立ち寄って行ってくれるかは個人差がある。野菜を持ってきてくれたり、お孫さんを連れて遊びに来てくれる方がいる。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所が地域で孤立しているという感じを受けたことはない。気候や行事の内容によって、参加できる利用者は可能な限り参加できるように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症・介護保険・高齢者施設などに関する相談を受けることがある。地域の高齢者の方を中心にホームへの慰問等にお誘いしている。</p> <p>共用型のデイサービスもあるが利用者はいない。</p>	○	<p>地域密着型連絡協議会でも話し合われているが、「認知症かけこみ110番の家」のような、認知症に関する相談拠点になりたいと考えている。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部の方から見ていただき、客観的なご意見を伺うことの重要性は日ごろから感じている。ご意見が寄せられれば職員会議などで検討し改善に努めたい。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>外部評価の結果は報告し、サービスの向上に活かすように努めている。外部評価の評価項目を議題に取り入れ話し合うことも多い。利用者状況は報告している。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の高齢福祉課や介護保険課へ伺ったり、電話連絡等で相談に乗っていただいている。市の担当者から他施設での取り組みなどアドバイスを頂いている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>運営推進会議で市の職員の方に成年後見人制度についてお話いただいた。今のところ必要な方がいらっしゃらないので具体的な話はしたことがない。</p>	○	<p>必要な方が出てきた時に、活用できるような知識をつけておく必要もあると思うので、学ぶ機会を設けたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>全体的に研修や講習を受ける機会が減っている。「虐待」にも色々なケースがあるので知識を深める必要があると思う。虐待の防止の徹底はできている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約時にはご家族と十分に話し合いを行っていると思う。特に他施設への入所の場合は、受け入れ先が決まり、家族が安心されるまでサポートしている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族の思い、こちらの理念やグループホームがご家族に期待することなど、たくさん話し合わなければならないことがあるが、契約の初期段階で短時間では話きれないので、入居後しばらくは特に話し合いを多くしていきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書に苦情相談についての記載があったり、玄関に投書箱を設置している。 外部評価のアンケートが最も良い機会だと思う。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には近況をご家族へ必ず伝えている。毎月初旬に広報紙を発行しホームの出来事、予定をお知らせしている。個々に特別なことがあれば随時電話や手紙でお知らせしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>13項に同じ。ご意見、不満、苦情を言っただけであれば真摯に受け止め改善し運営に反映させる用意はできている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日常的に職員がアイデアや知恵を出し合っている。職員会議ではより細かい話し合いをして職員の意見を反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じた柔軟な勤務の調整ができている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>単独の事業所のため移動等はない。職員の入れ替わりは個人の都合による退職だけで最小限に抑えられている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社1年目で認知症介護基礎研修を、2年以上の勤務で認知症介護実践者研修を受講するように計画し、受講していただいている。その他、研修の案内があり有効な研修であると判断した場合には、随時受講してもらっている。</p>	○	<p>介護の質の向上のために、漠然と研修に参加するのではなく、研修の成果を実際の介護に活かせるようにしていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>群馬県地域密着型サービス連絡協議会に加入しているので、そこでの管理者同士の交流や、職員交換研修等での交流での刺激が質の向上につながっていると思う。他施設からの研修を積極的に受け入れている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の食事会や定例会議で日頃の業務に対する悩みや苦勞などを全職員で話し合っている。職員主催で運動する機会を作るなど親睦を深めている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者も現場の職員として働いているので、職員の努力や取り組み姿勢など把握している。一緒に働くなかで、向上心を持って働いてもらえるような関係を築いている。働きやすい雰囲気を作っていると思うので、それが個々の努力や向上心を持ち続けることにつながっていると思う。</p>	○	<p>研修や講習に積極的に参加したり、事業所が定期購入している介護に関する雑誌等を読んで知識や技術を高めてもらうように指導・協力していきたい。</p>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>他の利用者の嫉妬など考慮しなければならないが、入所初期はその方に係る時間を多くして、ご本人のお気持ちをよく伺い信頼関係を気付く事に重点を置いている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご利用前に見学していただいたり、話し合いによりご家族のお考えやご希望を伺っている。それに配慮したケアは行っている。利用初期だけではなく常にご家族との意見交換が必要なので、信頼関係を保つことを心掛けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極めて対応するように常に努めている。 他施設のデイサービスの利用を検討したケースもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人が納得されるということは難しいが、安心していただける場所だというイメージを持っていただけるように23項の回答のような柔軟な対応をしている。ご家族からは、ご本人の生活歴や性格などを伺い、それに配慮した対応をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	喜怒哀楽は素直に表現できる環境にあると思う。一緒にテレビを見たり、家事をしながら会話をするなど、自然に寄り添える関係ができている。 若い職員が知らない、昔の事を教えてもらうことも多い。	○	職員も含め「一緒に暮らしている人」という認識でいる入居されている方もいれば、「私たちはお金を払っているお客だ」という方もいるので、そういった差が解消できれば良いと思う。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	適度に面会に見られ、職員と話をする機会が多いご家族とはある程度関係が築けている気もするが、「預かっていたでいては」という負い目や遠慮があり本心が言えないのではないかと感じる。利用者の生活に関心がないのではないかと感じさせるご家族もいる。	○	契約に関する説明や利用初期に築く信頼関係の項目と同じで、共通の認識を持って話ができるような工夫をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族の関係の理解には努力している。「一歩引いてお互いが優しくなれた」と言われるご家族がいた。身元引受人になっている方だけでなく面会に来てくれる身内の方にご協力をお願いすることもある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族が望まれれば支援している。友人宅に遊びに行ったり、友人が遊びに来られたりすることがある。守秘義務や個人情報保護の観点からグループホームとしてどの程度できるかの判断に困っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は把握している。仲良くテレビを見たり、心配事に対して返答してくれている関係がある。利用者同士では混乱されることが多いので職員と中心に係ったり一人で過ごされる方もいる。	○	色々な場面で、職員が間に入ることで、新しい関係が生まれることもあると思うので、そういった場面作りをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする利用者や家族でなくても、関係を断ち切らない付き合いを続けている。亡くなった方の法事やお墓参りに伺っている。利用者様が亡くなられた後もご家族の方がホームを訪れてくれる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望に沿うことは、ホームの運営理念にも掲げてケアの基本としている。共同生活の秩序が乱れない程度に本人本位で生活していただいていると思う。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族も思い出すのに時間がかかる事がある。面会時に伺ったり、お茶の時間等の雑談から引き出すようにしている。高齢の方が多く、生活歴の把握が難しくなっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	把握し変化が見られれば、すぐに職員間で話し合いケアプランに盛り込んでいる。	○	職員によって、とらえ方に個人差があるので、客観的な見方ができるように努力する必要があると思う。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の希望やご家族の意見を伺える方は、反映したプランが作れている。	○	「すべてお任せします」というご家族が多いので、必要不可欠なご意見だということをご理解いただき、意見を言ってもらえる関係を築いていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直している。変化があれば現状に即した計画を随時作成している。	○	その都度、臨機応変な対応をすぐに行っているため、ケアプランに盛り込み切れていないことがある。それを盛り込む工夫をしていく必要があると思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体的にできていると思うが、情報を共有しながらの実践をもう少し徹底したい。	○	僅かなことでも気づいたことを全職員がケース記録に記入できるようにしたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用方のデイサービスを運営しており、随時受け入れる予定。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	個人の必要性に応じたボランティアでは、囲碁の相手に来ていただいたことがある。踊りやハーモニカの演奏の慰問には来ていただいている。金融機関との関係で、後見人制度を利用するためにご家族に協力している。沼田市社会福祉協議会にお願いして傾聴ボランティアを派遣していただき、関係を継続していけると思う。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ある利用者がデイサービスの利用の検討をしていた時に地域のケアマネジャーに相談したことがある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて相談し、協働していく体制はある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	沼田脳神経外科病院、沼田クリニック、青木クリニックが協力医療機関になっている。特に青木クリニックの院長には往診していただいたりこまめに相談に乗っていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化や終末期、看取りなどデリケートな内容だが、ご家族全ての方に考えていただけるように協力医療機関のドクターに講演していただく案があるので実現できるように努力する。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮した言葉かけや対応は利用者との関係を気づく上で全職員に基本としてもらっている。個人情報の取り扱いには注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日中の居場所、食事内容、入浴の時間など自分で決定されている人はいる。 外食会のメニューを決定してもらっている。 決定できない方でも納得していただけるように誘導はしている。 個人の理解力に応じて選択肢を絞って質問するなど工夫している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の決まりを優先することではなく、「その人らしい暮らし」を送っていただく事を基本としている。「家に帰りたい」「買い物に行きたい」等の希望があれば随時対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご自分で着る物が選べる方にはしていただき、その上で直す必要があれば支援している。 理容・美容に関してはご本人の心身の負担を考慮し認知症に理解のある美容師に来ていただいたり、ホーム長がカットしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事のメニューは好みを考慮して別々のものを提供している。 準備や後片付けを率先してやってくれる方もいるが個人差がある。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒は希望があれば提供している。飲み物、おやつは好みに配慮している。たばこに関しては喫煙者の申し込みや入居が無い。	○

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご本人から排泄の訴えがあれば随時トイレ介助している。ほとんどの方が尿漏れがあるのでリハパン・パッド使用しているが、随時のトイレ誘導と汚れ具合により随時パッド・リハパン交換している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を好まない人が多くなっているため、こちらで曜日や時間を決めるが必要になってきている。ただ、ご本人の思いに配慮した支援をしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息が必要な時には十分に休んでいただいている。気温の高い時期に布団や毛布をかけて寝ていたり、冬季には電気毛布を高温で使用し脱水の恐れがあり、室温などを随時確認し過ごしやすい環境に調整して休息できるように支援している。ご本人の生活暦や感覚を考慮しながら生活環境を調節している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	音楽の好きな方は歌を歌ったり聞いている。職員と係ることが好きな方は職員の近くでお話をしている。洗濯物を畳んでくれる方がいる。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自分で持っている方が5名いる。ご本人の希望で買い物に行くことがある。職員は本人がお金を持つことの意義を理解しているが、利用者はお金がなくても生活できる環境になじんでいるためか「何もいらぬ」といわれる方がほとんど。買い物の後に「買って言われたから買って来た。」と言われた方がいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日自主的に庭に出たり散歩に行かれる方がいるので所在の確認をしている。天候に応じて希望者は散歩をしている。ドライブが好きな利用者はホームのお使いなどに誘って外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	可能な限りそうしているが、行ってみたいところがあるというご要望はほとんど聞かれない。「家に行きたい」という方を自宅まで送る事はある。「こういう所があるけれど行ってみたいですか?」と聞いて誘ってお連れすることがある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば支援している。電話は、相手に迷惑にならない時間帯にさせていただくように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	お気軽に面会に来ていただいていると思う。他の利用者も含めてホームの皆さんと一緒に過ごしてもらうか、ご家族だけで過ごしてもらうかはその都度対応している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことが基本になっている。	○	「安全の確保」と「拘束」の差が曖昧にならないように、勉強会や研修に参加するなど意識を高めていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は一切していない。自由に外出していただいているので所在の確認はしている。「家に帰る。」「死ぬから。」と言って外へ行かれた方には職員が後からついて行き気持ちは落ち着くまで同行して一緒に戻ってくる支援をした。鍵を掛けない事が当然なので、施錠の弊害に関しては、資料や推測での漠然とした理解しかない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自由に生活していただいているので、所在の確認と安全の確保は重点を置いて支援している。	○	利用者の転倒が稀にあるので、ゼロになるようにさらに意識を高めて支援したい。具体的には「誰かが見てくれるだろう。」という気持ちをなくし職員同士の声掛けを増やす等、話し合っていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	できていると思う。以前の外部評価で洗剤類の置き方を指摘されたが、触ったり飲んでしまう方はいらっしやらないので使いやすい位置においてある。	○	外部評価などの第三者の客観的なご意見を伺う機会を多く持ち、職員が見落としている点を指摘していただきその都度対応を考えていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止の研修や講習を受けている。研修や講習で得た知識を全職員に伝えている。一人ひとりの状態に応じた事故防止に努めている。	○	対応策や技術等は日々進化していると思うので、研修等に積極的に参加して最新の知識を身につけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、春と秋に消防と救急救命の訓練を消防署の指導の下に行っている。	○	消防署主催の救急救命の基礎講習を受けたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年、春と秋に消防と救急救命の訓練を消防署の指導の下に行っている。訓練の事前に近隣の方や運営推進委員の方に呼びかけ訓練に参加していただいている。今年度から毎月15日に避難訓練を行うようにしている。	○	地域の消防団に協力をお願いして、共同での訓練を行いたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	全ての方に共通のリスク及び、職員から見て気になることなど随時ご家族に相談して対応策を考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	随時、表情や雰囲気の変化を客観的に観察している。毎日10時に血圧と体温の測定を行っている。気づいたことは出勤者全員及び、ホーム長で共有すると共に話し合い対応している。全職員に伝わるように申し送り及び詳細の記録を徹底している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示・指導を記録及び申し送りの徹底をしている。処方箋の確認をしている。薬の管理をして、服薬の確認をその都度行っている。日々の状態の変化の確認に努めている。	○	職員の個人差がないように、日々の業務及び職員会議等で話し合い努力していきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分不足等の主な原因には理解している。予防と対応のための飲食物の工夫には力を入れて取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助が必要な方には毎食後介助している。ご自分で行える方には声掛けをして行ってもらっている。口腔ケアの重要性に理解のない方には普段から何気なくお話しして意識を高めもらうように努めている。	○	自立度の高い方への支援が徹底できていないので、食事の席から離れるのを見逃さないようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事を提供しているが、一日の食事の量に重点を置いているので、好き嫌いの多い人には好みのものを提供するように支援している。水分量が少ない方には積極的に声掛けをして提供している。		昨年の外部評価で「栄養バランス」の証明できるものがあつた方が良いと指摘され、改善に向けて取り組んだが、多少の偏りがあっても食べてもらうことが何よりも重要であるという考えに戻っている。定期受診や健康診断のデータでの確認となっている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	行政や医師の指導に基づいた対応を実行している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤時間帯に調理器具等の殺菌消毒を行っている。食材は安全な食材を新鮮なうちに調理している。毎週金曜日に食材の整理をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の外観は民家に近い形式に作ってある。開設当時から「入りやすい雰囲気ですね。」と言われているので、その状態を維持し続けるように努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が見間違いや誤解により不安を抱かせるようなものは置かないようにしている。お正月、お節句、七夕、お月見などにホーム内に飾りをして季節感を出す工夫をしている。トイレは随時清掃している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と2箇所のソファがあるので、気の合わない人とは一緒にいないで思い思いに過ごしていただいている。玄関に出る人のために椅子を用意してある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に持ち込む物や雰囲気作りに関しての提案はさせていただいているが、どういう風にされるかはご家族にお任せしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭気やよどみに対しては消臭剤や換気により対応している。換気については、施錠をしていないことから随時行っている。室温は夏季は28℃、冬季は20℃を基準にして調節して一年を通じて過ごしやすくしている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器、車椅子、シルバーカーを使用して移動できるように空間が広く作ってある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの戸のつくりを3箇所とも統一して、「お手洗い」の札をつけたある。居室の入り口に名前を大きな字で書いた札を下げたり、色の違う暖簾を下げて目印にしている。混乱や失敗が見られれば随時対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の外側にもベンチを置いているので日光浴される方がいる。西側のテラスにもスロープを作り、自由に庭へ出られるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

職員が時間や業務に縛られ過ぎていないので、ゆったりとした雰囲気だとよく言われる。利用者と職員が一緒にお茶を飲み、食事をしている。臨機応変、柔軟な対応での利用者主体の生活の支援ができています。食事の好き嫌いがあっても、食べていただくことを最優先に考えて、好みの食材を提供している。

「家に帰りたい。」と外へ行く人には同行したり、自宅まで送っていくなど、利用者の思いを抑えずに支援している。したいことはしてもらい、したくないことはしない、というように自分のペースで過ごしていただくことを基本としながら、心身の健康を心がけた支援をしている。